

## ITU-R SG6 議長 (RA-15 選出(新任)) 西田 幸博氏 (NHK) に聞く

【読者のための豆知識】

SG6 (第6研究委員会)の活動内容：  
放送番組の制作・交換から送信・受信までの  
放送のエンドツーエンドに亘る研究

専門領域: 映像方式、映像符号化、品質評価、放送方式

略歴: 1985年 慶應義塾大学大学院工学研究科修士課程修了  
1985年 日本放送協会入社  
1996年 ITU-R SG11 関連会合への参加開始  
1999年 ITU-R SG11 WP11B 副議長(組織変更により WP 6D, WP 6A, WP6B)  
2007年 ITU-R SG6 副議長就任  
2008年 ITU-R SG6 WP6B 議長就任  
2015年 ITU-R SG6 議長就任(現在に至る)



— RA-15 から1年余りが経ちましたが、重責を担われていることについて現在の率直なお気持ちは？

(西田) 2回のSG会合を終え、当初の不安な気持ちは徐々に解消しつつありますが、無線通信セクターで唯一の日本人SG議長という重圧からは逃れようがありません。

— ご専門領域とご経歴、ITU(SG)との係わりなど、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

(西田) ITU-R での放送技術の標準化に関わり始めて20年が過ぎました。ITU-Rのほか、電波産業会(ARIB)や情報通信審議会での国内放送方式の標準化や、国際的な放送事業者団体での標準化にも参加しています。

— これからRA-19/WRC-19に向けて議長としてリーダーシップを発揮されていくことになりますが、今研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのような事でしょうか？

(西田) モバイル通信が飛躍的に普及し、放送番組の視聴のされ方が変わりつつある中で、放送の将来像を描き、放送の発展に貢献することがSG6の使命です。高品質な放送コンテンツを効率的に視聴者に届けるための技術とスペクトルの確保が最重要課題です。

— 議長としての目標達成のためにどのような点に力点を置いて活動される予定ですか？

(西田) ITU-R SG6は数多くの勧告やレポートを作成し、生産性の高いSGの一つです。この良き伝統を引き継ぎつつ、一層の活性化を図りたいと思います。放送の将来を見据え、進取の精神で新しい技術・アイデアを放送に取り入れていきたいと思っています。

— 議長としての難しさや壁(障壁)、そうしたことへの対処方法はどうお考えですか？

(西田) 元議長が引き続き参加している中での舵取りはやりにくさを感じる時がありますが、先賢に学びつつ、また、SG副議長、WP議長・副議長、カウンセラーを交えたマネジメントチームの総力で課題解決を図っていきます。

— わが国の政府関係やICT産業界からの理解や協力が大変重要で必要なものだと思いますが、これについての期待をお聞かせください。

(西田) 放送を取り巻く環境が変わりつつある中においても、放送の役割・重要性が引き続き理解されることを願っています。わが国は、世界初の直接衛星放送、HDTV、緊急警報放送、最近の4K・8Kなど絶えず先進的な取り組みを行っており、今後も他国の模範となることを期待しています。

— 他国の政府や事業者などとの協調・協力が不可欠だと思いますが、議長としてこうした加盟国(事業体)に対して期待することはどのようなことがありますか。

(西田) 放送の発展という共通の目標に向けた建設的な議論がなされることを期待しています。

— 個人的な信条とか、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

(西田) 中学・高校時代にアマチュア無線やBCLに熱中したことが、仕事として放送に関わることになった遠因かもしれません。テレビは大好きで、ながら視聴・真剣視聴といろいろですが、テレビの無い生活は考えられません。

— このインタビューにお時間を割いていただき有難うございました。これからの一層のご活躍をお祈りしております。読者の方へのメッセージがあればお聞かせください。

(西田) 放送は90年を超える長い歴史を持つマスメディアであり、技術の進化と共に発展してきました。今後も、ICT 技術の進展とともに最先端技術で放送を支えるための技術開発と標準化が必要です。また、ITU での国際標準化に携わることは、世界に貢献する仕事だと思います。皆さまのご支援をお願いします。

文責:(一財)日本 ITU 協会(M)